

弥生会 九月度選句表 「当季雜詠」 選者「」

秀句一句を含む五句以上十句以内の間で選び十一月十日までに編集宛ご提出下さい。

01	十六夜や晴れ間を見せぬ句座の窓	24	草刈って第一試合始まりぬ
02	ソータ水ストロー二本残りけり	25	流れゆく雲を見つめて夕端居
03	盆僧の走るごとくに経読めり	26	朝顔やエコカーテンとなりてをり
04	炭鉋節掛けて始まる盆踊	27	日焼せし子の歯が笑ふ浜通り
05	仰向けの蟬脳震盪か飛びゆけり	28	秋簾下ろして声の筒抜けに
06	境内を占めて夜店の裸球	29	盆栽の涼しき院の待合所
07	手花火の精燃えつきて闇ひそか	30	参道に焼きそば匂ふ夜店かな
08	花幾つ数えて下る秋の尾根	31	山里は今宵も茄子色の夜
09	山畑の葛葉の原となりにけり	32	朝の畑腰の蚊遣りのつと匂ふ
10	似合わぬと言いつつ妻の夏帽子	33	夕立に濡れし野良着もすがすがし
11	彼岸花生えきし墓所の内と外	34	朝顔の支柱を離れ伸びにけり
12	風鈴を吊るして夕べの風誘う	35	中座敷喪服のかかる夜の秋
13	山小屋の西瓜一切れ超うまし	36	さやけしや抹茶いたたく竹の庭
14	ボランテアの手つきの慣れぬ松手入れ	37	庭下駄に足裏 <small>あくら</small> 楽しも望の月
15	リヤカーを引ききたる日々の赤とんぼ	38	盆栽に生えて一景猫じゃらし
16	水打って暖簾に低き琴の声	39	幼子も愛想の良き敬老日
17	熱き湯にしみじみたれば虫の声	40	甚平に風の軽さを着て独り
18	夏座敷はさみ将棋に興ずる子	41	先を行く夫の背にある夏疲れ
19	秋夕焼里に継がれしわらべ唄	42	とうすみの漣の暗みに消えにけり
20	会場は花火の渦に五輪かな	43	大野分溜りし芥吹き飛ばし
21	打水の涼味漂ふ店の先	44	初秋やベルト短くなりにけり
22	十年は短し長し秋なすび	45	潮浴の波にすがれる浮輪の子
23	手に揉めば香り零せり草の絮	46	オリンピックに響く君が代終戦日

弥生会十一月度誌上選句会投句依頼

兼題なし(当季雜詠)三句く七句を十一月十日までに編集宛お送り下さい。
 ご投句は九月度選句結果と共に郵送(封書、葉書)、FAX、メール等にて
 お願い致します。